

令和 5 年度内部モニタリング結果を受けての
令和 6 年度における対応について

豊中市伊丹市クリーンランド内部評価委員会における令和 5 年度の内部モニタリング評価結果を受け、令和 6 年度に行うこととしていた各対応について、下記のとおり実施いたしましたので、報告いたします。

リサイクルプラザ（豊中伊丹スリーR・センター）			
	令和 6 年度における対応	具体的取り組み内容	取り組み結果（効果）
資源化について	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き豊中市、伊丹市と協力して搬入物検査を実施し、不適正品目の混入低減や適正な分別排出に向けた周知・啓発を行うことにより、資源化率の向上に努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 豊中市、伊丹市と協働して、プラスチック製容器包装（11 回）と不燃ごみ（20 回）の搬入物検査を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 両市とともに搬入物検査や分別の周知を行い、適正搬入を促すことで、引き続き資源化率の目標は達成しており、昨年度より向上した。
事故・故障について	<ul style="list-style-type: none"> 手選別業務における労働災害ゼロを継続するため、受託者に対して保護具の検証や作業手順の徹底を引き続き指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 針刺し事故防止に向け、手選別作業に用いる手袋の改善や二重着用などの対策を継続した。 充電式電池等の発火による目の負傷防止のため、防塵グラスを着用し作業した。 手選別作業員を少人数グループ単位で業務を実施することにより、お互いに注意を伝えやすくしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 豊中伊丹スリーR・センターでの労働災害ゼロを継続することができた。
	<ul style="list-style-type: none"> 充電式電池やそれらを内蔵する小型家電製品について、豊中市で令和 5 年 10 月から分別収集が開始されたため、その周知を図ることに加え、拠点回収について豊中市、伊丹市と協働して啓発することにより、発火検知件数の低減を図るとともに、更なる適正処理に向けた検討を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 豊中市、伊丹市と連携し、ホームページ・広報、SNS での動画配信等により、リチウムイオン電池やそれらを内蔵する小型家電製品の適正な排出に向けた市民等への周知や啓発を継続。豊中伊丹スリーR・センターの見学時には発火防止啓発コーナーでの動画視聴を必須とした。 	<ul style="list-style-type: none"> 豊中市、伊丹市と連携した発火防止に係る取り組みを実施するとともに、見学に訪れる市民等へ発火防止啓発コーナーで動画や展示品による案内を実施することにより、適正な分別と廃棄についての周知・啓発につながった。

リサイクルプラザ（豊中伊丹スリーR・センター）			
	令和6年度における対応	具体的取り組み内容	取り組み結果（効果）
環境学習・啓発について	<ul style="list-style-type: none"> ・定員数をコロナ前に戻すなど、安心・安全に配慮しながら、施設見学やイベントを積極的に開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント参加定員を緩和し、コロナ禍前の定員数に戻して施設見学やイベントを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加定員をコロナ禍前の水準に戻したが、社会見学の参加小学校数が減少したことにより、前年度より若干見学者数は減少した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き豊中伊丹スリーR・センターとごみ焼却施設、クリーンランドひろばを合わせた効果的な環境学習メニューを企画し、実施することで、更なる来場者増を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョイントひろば（年2回）の開催をはじめ、展望フロア開放デー、市民講座、ひろばイベント等を実施するにあたり、より効果的で集客力の高い環境学習となるよう検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5月のジョイントひろばが雨天のため、来場者増とはなかったが、各種事業やイベントを実施する中で、特にごみの減量や分別、発火防止等に係る周知・啓発を行うとともに、積極的に周知することで、効果的な環境学習となるよう実施した。

令和 5 年度内部モニタリング結果を受けての
令和 6 年度における対応について

豊中市伊丹市クリーンランド内部評価委員会における令和 5 年度の内部モニタリング評価結果を受け、令和 6 年度に行うこととしていた各対応について、下記のとおり実施いたしましたので、報告いたします。

ごみ焼却施設			
	令和 6 年度における対応	具体的取り組み内容	取り組み結果（効果）
ごみ焼却施設について（規制基準）	<ul style="list-style-type: none"> 可燃ごみ搬入量の減少傾向を鑑み、実情に合致した焼却計画や発電計画の効率的かつ効果的な見直し、また豊中市・伊丹市の搬入受入れに支障の無いよう、ピット残量の調整ならびに総合的なごみ焼却施設運転計画の適宜見直しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の焼却炉の運転計画と運転実績から現状を把握して、翌月以降の運転計画に反映させて安定的な運転管理に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 適宜搬入状況に応じて運転計画を見直したことで、効率的に焼却炉を稼働、発電ができた。
	<ul style="list-style-type: none"> 今回の排ガス測定における瞬時的な窒素酸化物排出量の自主基準値超過については、急激なごみ質の変化による不可抗力的要素によるものではあるが、引き続きごみピット内の攪拌による、ごみ質の均一化や排ガス処理設備の適正な維持管理や管理薬剤使用量確認を通して自主基準値遵守に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ごみピット内の攪拌による、ごみ質の均一化を図ることで安定した焼却を行うことで自主基準値遵守に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 排水のすべての項目において排出基準値を満たす結果となった。
事故・故障について	<p>労働災害</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き危険予知訓練や作業前ミーティングを行うとともに、事業場安全衛生活動において、研修等の実施により、安全・衛生に関する職員一人ひとりの意識向上の取り組みを図り、「労働災害ゼロ」をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業前ミーティングの徹底と事業場安全衛生に関する研修等を実施した。 始業時に安全衛生活動について唱和を行い、安全・衛生に対する意識向上に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員一人ひとりの安全衛生を意識することで、「労働災害ゼロ」を達成した。

事故・故障について	<p>発火・火災・爆発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみピット火災による施設の操業停止を回避するため、初期消火に必要な不可欠な設備である、赤外線カメラやITV カメラ、自動放水銃の適正な整備を行うとともに、排煙対策についても更なる検討を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クリーンランドにおいてもごみピット火災が年に数回の頻度で発生しており、延焼の予防対策の検討を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみピット火災時の消煙・防災には水噴霧を行うことで一定の効果が期待できることから、水噴霧装置の増設を計画した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・年度替わりに発火件数が増加傾向にあることから、年度初めの早い段階で消火訓練を実施し、適切な消火活動が行えるよう備える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早い段階で消火訓練を実施し、適切な消火活動が行えるよう備えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・迅速な消火活動を実施したことにより、機器停止に至るような故障はなかった。
資源化について	<ul style="list-style-type: none"> ・高効率発電の維持については、ごみ搬入量と焼却炉の稼働状況により大きく影響することから、例年同様設備機器の適正な維持管理はもとより、ごみ搬入量の増減にも柔軟な対応ができるよう、ごみピット残量の調整ならびに運転計画の適宜見直しを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の安定稼働に欠かせない定期補修工事について、仕様・工程通り着実に履行し、適宜、運転計画に反映させて焼却業務を行ったことで、安定的な発電を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運転操作や運転計画等の変更により、安定した発電量を確保することができた。